

第2種兼業農家が58.5%と定着……………

はじめに

この調査結果概要速報は、昭和55年2月1日現在で県下のすべての農家及び林家・事業体を対象として農林水産省所管により実施した「1980年世界農林業センサス」の結果をとりまとめたものである。対象となった農家等は以下のとおりである。

- (1) 経営耕地面積が10a以上で農業を営む世帯。
- (2) 経営耕地面積が10a未満であっても過去1年間における農産物の総販売額が10万円以上あった世帯。
- (3) 保有山林面積10a以上の林家及び事業体。

結果の概要

(1) 総農家数

昭和55年2月1日現在の本県の総農家数は172,918戸であり、昭和50年2月1日以降の5年間に8,156戸減少し、4.5%の減少率をみた。

50年までは農家数の減少数が増大傾向であったが、今回はじめて減少率が鈍くなった。

(2) 専業別農家数

専業農家は50年の24,831戸から24,225戸となり、5年間に606戸減った。

表1 専業別農家数

(単位：戸，%)

		総農家数	専業農家	兼業農家		
				総数	第1種兼業	第2種兼業
実数	昭35	209,733	113,265	96,468	52,710	43,758
	40	201,485	69,419	132,066	73,534	58,532
	45	193,115	38,196	154,919	80,444	74,475
	50	181,074	24,831	156,243	63,451	92,792
	55	172,918	24,225	148,693	47,549	101,144
増減率	40/35	△ 3.9	△38.7	36.9	39.5	33.8
	45/40	△ 4.2	△45.0	17.3	9.4	27.2
	50/45	△ 6.2	△35.0	0.9	△21.1	24.6
	55/50	△ 4.5	△ 2.4	△ 4.8	△25.1	9.0
構成比	昭35	100.0	54.0	46.0	25.1	20.9
	40	100.0	34.5	65.5	36.5	29.1
	45	100.0	19.8	80.2	41.7	38.6
	50	100.0	13.7	86.3	35.0	51.2
	55	100.0	14.0	86.0	27.5	58.5

45～50年の減少数は13,365戸35.0%、40～45年は31,223戸45.0%と大巾に減少したのに対し、今回は2.4%の減少にとどまった。過去10年間では13,971戸減少して36.6%の減少率を示した。

また、農業を主とする第1種兼業農家はこの5年間に15,902戸減少し、47,549戸となり、45年をピークに急減している。

農業を従とする第2種兼業農家は8,352戸増加して101,144戸となり、増加傾向が低くなった。(表1)

(3) 主な兼業種類別農家数

兼業農家について、家としての主な兼業種類別の構成比の推移をみると、よそに雇われて働きながら農業をしているやとわれ兼業が50年の84.6%から85.0%になり、農業と農業以外の自営業をする自営兼業は50年15.4%から15.0%となった。

やとわれ兼業について、安定的な就業状態である恒常的勤務と不安定な就業状態である出かせぎ、日雇、臨時雇とに分類してみると、第1種兼業農家では恒常的勤務が50年の44.8%から56.5%と上昇し、第2種兼業農家では恒常的勤務が50年の60.7%から65.8%と比重は高くなった。

出かせぎ、日雇、臨時雇については恒常的勤務と対照的に減少し、総数で出かせぎは241戸減少し413戸となり、日雇、臨時雇については14,292戸減少し32,514戸となった。

(4) 農産物販売金額1位の部門別農家数

農産物販売農家総数に対する販売金額1位の部門をみると、稲が61.5%と断然大きな割合を占め、続いて野菜類の9.3%、工芸農作物の7.9%と続いている。前回と比較し特に大きな増加をみたその他の畜産は2倍強の増加で1,396戸となり、これは肉用牛の飼養普及によるものと思われる。

(5) 単一経営農家数

農産物販売収入1位の金額が総販売金額の60%以上を占める単一経営農家については、農産物販売金額1位の部門別農家と同じ順位で、稲、野菜類、工芸農作物と続いている。

(6) 農家人口

農家人口は前回50年より53,107人減少し838,191人で、減少率は6.0%である。

年齢構成総数では50年に比べ30～34歳台が22.4%、50～54歳台が10.5%、55～59歳台が21.2%、65～69歳台が2.1%、

..... 1980年 世界農林業センサス速報

70歳以上が7.6%増加している。

しかし、対前回比で最も増加率の高い30～34歳台をみると、50年の41,992人が55年には35～39歳台の40,491人となり、実際には3.6%減少したことになる。

このように前回と階層をずらして比較すると、世帯員数がいずれも減少していることがわかる。(表2)

表2 農家人口

(単位:人)

	総 数	男	女
昭和50年	891,298	435,275	456,023
55	838,191	411,655	426,536
対 比	△ 6.0	△ 5.4	△ 6.5

(7) 農家世帯員の就業状況

16歳以上の農家世帯員数 673,125人について就業状態をみると、自家農業だけに従事した人は235,835人で前回より14,235人減少した。自家農業とその他の仕事に従事した217,478人のうち、自家農業が主の人は40,506人で前回より19,791人減少し、その他の仕事が主の人は176,972人で前回より8,197人増加した。

自家農業以外の仕事だけに従事した人は89,007人で、前回82,143人に対し6,864人増加した。

農業就業人口は276,341人で、50年の310,367人に対し34,026人減少した。男女別の比率は50年では男40.1% 女59.9%で55年は男40.6% 女59.4%であり、今回も前回同様自家農業に主として従事した世帯員は女子が男子より18%以上多くなっている。

(8) 経営耕地面積

経営耕地面積は180,244haでこの5年間に6,854ha減少した。急激な開発の影響により前回50年に大巾に減少した面積16,637haに比べ、減少が58.8%緩やかになった。地目別にみると、田の面積は前回より2,209ha増加して103,552haとなった。畑の面積は引き続き減少傾向で今回も7,978ha減少して62,950haとなり、構成比は34.9%と低下した。樹園地の面積は前回まで増加傾向にあったが、今回は1,085ha減少して13,742haとなり、経営耕地のなかに占める比率は7.6%となった。

農家1戸当りの総経営耕地面積をみると、前回より0.01

ha増え1.04haとなった。これを田、畑、樹園地別にみると、田は前回より0.01ha増え0.57haとなり、畑は0.04ha減少し0.35haとなり、樹園地は前回と同様0.08haであった。(表3)

表3 経営耕地面積

(単位:ha, %)

区 分		総 経 営 耕 地 面 積	田	畑	樹 園 地
実 数	昭 35	209,003 ^{ha}	92,305 ^{ha}	108,784 ^{ha}	7,914 ^{ha}
	40	206,823	94,393	101,936	10,494
	45	203,735	104,494	86,839	12,402
	50	187,098	101,343	70,928	14,827
	55	180,244	103,552	62,950	13,742
構 成 比 (%)	35	100.0	44.2	52.0	3.8
	40	100.0	45.6	49.3	5.1
	45	100.0	51.3	42.9	6.1
	50	100.0	54.2	37.6	7.9
	55	100.0	57.5	34.9	7.6
農 家 一 戸 当 り 面 積	35	1.00 ^{ha}	0.44 ^{ha}	0.52 ^{ha}	0.04 ^{ha}
	40	1.03	0.47	0.51	0.05
	45	1.05	0.54	0.45	0.06
	50	1.03	0.56	0.39	0.08
	55	1.04	0.57	0.35	0.08
農 一 人 当 り の 業 業 人 口 面 積	35	0.37 ^{ha}	0.16 ^{ha}	0.19 ^{ha}	0.01 ^{ha}
	40	0.45	0.21	0.22	0.02
	45	0.49	0.25	0.21	0.03
	50	0.60	0.33	0.23	0.05
	55	0.65	0.37	0.23	0.05

(9) 作物別収穫面積

前回と比較して減少しているのは、工芸農作物21.8%、花き類・花木・芝21.4%、種苗・苗木類16.2%、稲7.6%、野菜類5.2%であり、これに対し雑穀157.8%、いも類28.6%、麦類16.0%、豆類15.4%、その他の作物177.9%が増加している。総面積では9,311ha減少し167,626haとなった。

(10) 主な果樹栽培農家数と面積

主な果樹を種類別に前回と比較してみると、栽培農家数はぶどうが3.5%増加しているほかは減少している。

栽培面積ではぶどうが22.6%、なしが7.3%増加しているが、それ以外の果樹は減少して、特に夏みかん98.6%、もも71.8%が大巾に減少している。

(1) 施設園芸農家数と面積

施設園芸の施設のある農家は7,034戸となり、前回と比較して4.1%の減少を示した。ビニールハウスのある施設数は3.8%の減少となり、ガラス室は逆に5.2%の増加をみた。

施設面積については、ビニールハウス、ガラス室ともに増加し、増加率はビニールハウスで35.4%、ガラス室で32.1%となった。

(2) 家畜飼育出荷頭羽数と農家数

乳用牛はこの5年間に1,355頭増加して43,307頭となり、3.2%の増加率を示した。

肉用牛も前回は22.4%上回り29,963頭と大きく増加した。豚は73,249頭増加し、率で14.2%の伸びをみた。

にわとりは7.1%減少し2,195千羽となり、ブロイラーの過去1年間の出荷羽数は8,943千羽となり21.5%の増加である。

家畜の飼育農家数は乳用牛、肉用牛、豚、にわとり、ブロイラーのいずれも50年に比べ24%以上減少したが、農家1戸当りの飼育頭羽数をみるといずれも増加している。

全体に家畜の飼育農家は少数飼育から経営規模拡大の多頭飼育に移行している。

(3) 養蚕飼立卵量と農家数

養蚕農家は この5年間に2,424戸減少して6,681戸となり、飼立卵量も13,013箱減少し110,353箱となった。

(4) 雇用労働雇入れ農家数と人数

過去1年間の雇用労働雇入れ農家数は前回と比べ手間替、ゆいの64.1%を始め農業臨時雇の50.6%、手伝い42.6%、農業年雇17.4%とそれぞれ減少した。

雇入れ延人数についても、雇入れ農家の減少に伴い、農業臨時雇の総農家1戸当り人数では50年の3.1人から1.8人に減少した。また、手間替、ゆい、手伝いを受け入れた農家数の割合及び総農家1戸当りの延人数についても、50年に比べるといずれも低下または減少した。これは農業の機

械化進展によるものと思われる。

(5) 水稲作の請負作業

水稲作の作業を請負させた実農家数を50年と比較してみると、1,893戸増加し41,249戸となった。種類別には、田植、防除、稲刈り、脱こくの作業を請負させた農家数はそれぞれ大巾に増加しているが、耕起、代かきの作業を請負させた農家数は前回より減少している。

請負わせ面積では、耕起が5.5%減少になっているほかはいずれも増加している。

農作業を請負った実農家数は前回に比べ294戸減少し3,885戸となり、内訳では水稲作作業を請負った農家数が295戸減少し3,766戸であり、水稲作以外の作業を請負った農家数は67戸増加して510戸となった。

(6) 農用機械

動力耕うん機、農用トラクターの所有農家はこの5年間に2.7%減少して127,530戸となり、所有台数も7,378台減って169,886台となった。

米麦用乾燥機も農家数、台数ともに減少したが、走行式動力防除機、動力田植機、バインダー、自脱型コンバインはそれぞれ40%以上の大巾な伸びをみせた。(表4)

(7) 保有山林規模別事業体数と面積

45年から55年の10年間に農家林家の保有山林は9,351ha減少し52,437haとなった。

規模別にみると、0.1から50haまで農家数、面積ともに減少しているが、50ha以上の農家数は5.4%増加し、面積も36ha増し3,514haとなった。

非農家林家については規模別各階層とも非農家数面積が増加している。

林家以外の林業事業体では総数で面積が22.1%増加している。規模別にみると、50ha以上の面積をもつ事業体が増加しているが、小規模の面積をもつ事業体は減少傾向にある。

(統計課・農林消費統計)

表4 農用機械(個人有農家数と台数)

(単位:戸、台)

		動力耕耘機 農用トラクター		米麦用乾燥機		走行式動力防除機		動力田植機		バインダー		自脱型コンバイン	
		農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数
実数	昭50	131,078	177,264	87,741	88,152	348	349	22,561	22,583	43,949	44,001	12,952	12,978
	昭55	127,530	169,886	83,070	83,612	1,718	1,725	63,873	64,025	61,528	61,720	31,799	31,864
増減率	実数率	△3,548	△7,378	△4,671	△4,540	1,370	1,376	41,312	41,442	17,579	17,719	18,847	18,886
		△2.7	△4.2	△5.3	△5.2	393.7	394.3	183.1	183.5	40.0	40.3	145.5	145.5